



第19号

中病だより

島根県立中央病院広報誌 2013.9月

〒693-8555 島根県出雲市姫原四丁目1番地1

TEL 0853-22-5111 FAX 0853-21-2975

Mail spch@spch.izumo.shimane.jp

URL <http://www.spch.izumo.shimane.jp/>

題字 岩成 治 / 表紙写真 新規採用職員辞令交付式の一場面



取組紹介

◇教育担当看護師長を設置 2

取組紹介

◇臨床研修病院（病院説明会・見学会） 3

取組紹介

◇島根県立中央病院の統合運用 5

話 題

◇臨床研究・治験管理室 6

特 集

◇いのちの輝きを考える日 7

連 載＜島根県ドクターヘリ＞

◇島根県ドクターヘリ運航3年目 8

取組紹介

◇しまね医療情報ネットワーク（まめネット）

サービス開始 9

取組紹介

◇チーム医療推進ワークショップ 10

話 題

◇院内イベント紹介 11

お知らせ

◇職員の採用情報 12

◇外来診療一覧表 12

編集後記

～表紙写真～ 新規採用職員の辞令交付式を行いました。
患者さんに信頼される職員になれるよう頑張ります！

～～ 若手看護職員をサポートします ～～

看護局 教育担当看護師長 細川 真紀



今年度、新たに新人教育とは別に専従で教育担当が設けられ、私は主に卒後2、3、4年目研修を担当しています。その対象者はこころの医療センターからの異動者や中途採用者も含めると100名程度になります。今までは、各担当看護部長

が病棟業務を兼ねて行っていたところですが、中堅看護師の育成充実が求められる現在、段階的な経年教育を専任で強化していくこととなりました。

卒後2年目研修では、開設2年目となる研修棟で、シミュレーターと呼ばれる人形やモデルを用いて、未経験の基本看護技術習得を中心に研修を企画しています。また看護理論やメンバーシップ研修も行い、チームメンバーとしての役割を自覚し、行動できるようになること見守ります。



基本看護技術フォローアップ研修

卒後3年目では新人をお兄さんお姉さんの存在で支える『プリセプター』として、プリセプターシップ研修が組み込まれています。新人が早く職場に適応できるよう支援し、また新人に教えることによって自己の成長を促します。



プリセプター研究会

卒後4年目研修では、各部署でリーダーシップがとれるよう集合研修でスキルを学び、実践に活かしていきます。この頃になると、おのずと看護ケアに問題意識や探究心が芽生え看護研究に取り組む者もいます。「自分が疑問に感じていること」や「この関係はなんだろう」というようなことを明らかにして、看護ケアの質向上に努めています。



リーダーシップ研修

このようにして看護師1人1人の若い芽を伸ばし、中央病院の大きな花となって、力が発揮できるように支援していきたいと思っています。よろしくお願いします。

～ 初期・後期臨床研修病院説明・見学会を行いました ～

初期・後期臨床研修管理委員会 研修実施責任者 今岡 友紀



私たちの病院で、6月22日土曜日11:00～15:30、全国の5、6年生の医学生を対象に、“臨床研修病院説明・見学会”を行いました。私たちの病院の臨床研修体制を医学生に直に感じて頂く重要なイベントです。この紙

面を借り、当日の様子をのべ、私たちの初期臨床研修に懸ける真意と情熱を感じ取って頂ければ幸いです。

臨床研修病院説明・見学会のポスターは、2年次の中下先生に依頼しました。完成したものは期待を凌ぐ素晴らしい出来で、ホームページにも掲載しました。当日の役割分担、昼食会、当日配布するパンフレット、掲示物、発表スライドの作成など、今年の見学者は何人だろうか不安を抱えて行います。

10:30過ぎ、参加してくれる医学生と1、2年次の初期臨床研修医が三々五々集合し、見学者は14名でまずは安堵しました。

11:00、2年次の板持先生の司会で開会。

まず、中山病院長が「厚生労働省のいうところの2025年問題まであと12年、日本の医療制度が大きな変革を迫られた中で、医師としてのスタートをしっかりとった研修病院で開始して欲しい。私たちの病院は期待に答えることのできる病院です」と口火を切りました。

今岡研修管理委員会副委員長は、「私たちの病院では、初期研修医から後期研修医の残留率が高まり、ブーメラン現象でまた帰ってくるようになった。いま私たちの病院の30%強は卒後5年までの若い医師で成り立っている、一緒に頑張ろう」と呼び掛けました。

松原救命救急診療部長は、「1、2、3次救急を断ることなく受け入れ、豊富な症例の診療に救命救急科は8名の医師があたり、またドクターヘリも運営している。診療体制、研修体制、指導体制も充実している」と充実した救急医療の現場を報告しました。

1年次の初期臨床研修医の奥原先生は、「私たちの病院は、研修、指導体制、研修環境の充実が図られており、3ヶ月経ったいま、ここで研修を開始して良かったと実感している」と笑顔で述べました。

2年次初期臨床研修医の本田先生は、「研修に必要な症例の質・量は豊富で、指導医は熱く、多くの診療科がローテーションでき、また6カ月間の自由選択期間もあり充実した研修期間を過ごせ、長い医師生活に必ず役立つと確信している」と話しました。



若手医師の説明を熱心に聴講する医学生

12:00、職員食堂で、昼食を囲み楽しく気楽に歓談。次の予定があり退席するはずだった病院長も、医学生とより交流するため続けて参加されました。

その後、屋上のドクターヘリの基地、救命救急外来、病棟など施設見学を臨床研修医の案内で行いました。

13:30、再び会議室へ。

後期研修医の高尾先生は、「2年間の初期臨床研修を終え、現在精神科で後期研修中である。3ヶ月がんセンターへ国内研修に行った。私たちの病院で2年間プライマリーを十分行ったことが、後期研修の自信になっている」と熱く語りました。

総合診療科の石橋先生は、「患者さんを疾患として診るのではなく、全人的に捉え診療することが重要。全員が総合医を目指す必要はないが、なくてはならない存在」と医学生の心に染み込むような口調で語りかけました。

そしてフリートーク。病院スタッフは席を外し、初期臨床研修医と見学者に本音を語り合ってもらいました。私たちの病院の研修体制の良いところ悪いところが包み隠さず語られたことと思います。

15:30、長い一日ではありましたが14名の見学者を迎えて無事終了できました。

次のハードルは、7月31日締切の応募者数、そして8月15、16日の記述・面接試験、9月27日マッチング中間発表、10月24日のマッチング結果最終発表へと気の揉めることです。初期臨床研修制度の理想と現実のはざまで試行錯誤の毎日が続きます。

初期臨床研修医の確保は、中長期的に病院運営には欠かせませんし、また日本の医師の卒後教育という大きな視点からも現状に迎合したいいい加減な研修は許されません。

日本の初期臨床研修を名実ともに充実させる努力の一端をご紹介いたしました。



若手医師と意見交換をする医学生



島根県立中央病院の運営方針

基本コンセプト

『継続・安定して質の高い医療を提供する
業務環境をつくることで経営の健全化を図る』



～ 官民協働で目標を達成 ～

平成25年度から給食業務の委託が新たに始まり、統合運用を構成する委託企業は合計10社となりました。島根県立中央病院で共に仕事をさせて頂く、委託企業の職員数は5月末現在352名です。当院の中では、看護局に次ぐ大きな組織に成長致しました。

委託企業と各社受託業務

事務・業務系

医事業務
施設運転管理業務
清掃業務
リネンサプライ業務
電子カルテ・システム業務
統合物流業務

医療技術系

検体検査業務
給食業務

(株)ソラスト

小西医療器(株)

スズケングループ・(株)サンキ

(株)太平ビルサービス

北陽ビル管理(株)

富士通(株)

(株)テクノプロジェクト

(株)岩多屋

三菱化学メディエンス(株)

日清医療食品(株)

今年6月18日(火)に医療支援室の企画による、第4回チーム医療推進ワークショップにおいて、統合運用推進室並びに統合運用を構成する委託企業10社によるフォーラム<病院をささえる日本初の「統合運用」>を発表致しました。当日は、統合運用推進室の概略をあらためて説明させて頂き、統合運用を構成する委託企業10社の責任者により会社概要と受託業務内容の紹介を行いました。本ワークショップには病院幹部並びに病院職員の方々に多数出席頂きました。ワークショップの冒頭、中山病院長より外部委託職員と病院職員がパートナーシップを組み、統合運用という形で病院運営を行っている病院は全国的に珍しく、他病院の幹部から注目を集めている事をご紹介頂きました。ワークショップの終了後、医療支援室にて参加者のアンケートを取りまとめて頂き、統合運用を構成する委託企業にとって今後の活動に役立つ貴重なご意見を多数頂きました。

この様なワークショップを通し、私ども統合運用に参画する委託企業の活動内容を、病院内に紹介する機会を改めて与えて頂いた事を大変感謝致します。

統合運用を構成する委託企業各社並びに委託企業職員は、島根県の医療を支える島根県立中央病院チーム医療の一員として、病院の更なる発展に向けて努力して参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



ワークショップで発表した委託企業の職員



病気に対する新しい薬や治療・診断法は、その安全性や有効性が確認されてはじめて標準的な治療として確立します。そこまでは、多くの患者さんのご協力はもちろん、膨大な費用と時間、

人力を費やしていることをご存じでしょうか？今回は臨床研究について、当院での取り組みとあわせてご紹介したいと思います。

<臨床研究とは>

病気の予防、診断や原因究明、治療方法の改善等のために、ヒトを対象として行われる研究を臨床研究といいます。その中でも医薬品や外科的手技などの治療を試験的に行い、有効性や安全性を調べる臨床研究を「臨床試験」といい、そのうち医薬品や医療機器について、国の承認を得るための成績を集める試験を「治験」と呼びます。

<事前審査の重要性>

医学の進歩のためには、このような臨床研究が不可欠であり、大昔から行われてきました。しかし、過去には人権を無視した行為、いわゆる「人体実験」が行われた歴史もあり、様々な取り決めがなされてきました。日本でも、法的規則や指針の取り決めがあり、研究の実施計画について、科学的根拠はあるか、安全性に問題はないか、患者さんへの同意説明はあるかなど、科学的、倫理的に妥当であるか事前審査が必要とされています。また、最近では、意図的なデータ改ざんや不適切な金銭のやり取りが行われていたニュースが報道され、利益相反（注1）に関する審査も重要視されています。

<当院での審査に対する取り組み>

当院では、臨床研究等を実施する前に臨床研究・治験審査委員会（IRB）で審査を行い、承認された研究のみ実施を可能としています。また、2010年より臨床研究治験推進チームを立ち上げ、そこが中心となって臨床研究等の事前確認を行っています。この作業

を行うことにより、IRBに提出される研究計画の問題点、不備等を事前に確認・指摘し、研究計画の科学的、倫理的な質を高め、IRB審議や実際の研究がスムーズに行えると考えています。2012年度より、治験担当秘書が専従で配置され、2013年度には薬剤師が1名専任で配置となり、より力を注ぐことが可能となりました。

<臨床研究・治験管理室>

さらに、2012年12月に待望の専用部屋ができました。現在常駐しているメンバーは、治験担当医療秘書2名、医療アシスタント1名、薬剤師が1名です。当初はひっそりと業務を行っていましたが、今では製薬企業の方や研究医師の来室が増え、にぎやかになりました。



臨床研究・治験管理室のスタッフ

<今後の目標>

管理室では、現在、申請された研究等に関する事前確認業務やIRBの準備作業が主となっていますが、今後は、研究の実施に対するサポート業務を行っていきたいと考えています。そのために研究をサポートするCRC

（Clinical Research Coordinator臨床試験コーディネーター）の育成に力を入れていきたいと思っています。

注1：利益相反とは、外部との経済的な利益関係により公的研究で必要とされる「公正」かつ「適正」な判断が損なわれる状態のことをいいます。

特集

いのちの輝きを考える日 ～いつもの力、出雲の地から～

いのちの輝きを考える日 実行委員長 今田 敏宏（総合診療科 医長）



病気や事故で昏睡状態に陥ったり認知症で判断が出来なくなったとき、多くの場合、治療方針の決定は家族に委ねられます。その時に自分の望む治療が受けられるでしょうか。そして自分の望む医療がどこまでなのか、家族は分かってくれているのでしょうか？このこと

を広く考えてもらうため、自分の医療の自己決定について考える「いのちの輝きを考える日」を提唱し昨年から活動しています。

「いのちの輝きを考える日」とは「自分の終末期、最期の過ごし方について考える日」です。つまり、目の前の誰かのことを考える日ではなく、自分の将来を考える日ということです。出雲市の医療介護関係者を中心とした「いのちの輝きを考える日実行委員会」が企画し年一回10月第3土曜日に講演会を開催しています。

なぜそのような日を創ったのかといいますと、現代は文明が発達し医療が高度化する中、かつては死を余儀なくされていた危篤状態でも様々な治療で命をつなぐことができるようになりました。それと共に自分が望む医療がどこまでなのか、どのような状態になることを望まないのか、家族と話し合っておかないと、いざその時に家族や医療者が治療の選択を迫られ判断に迷うことが多くなってきています。そこで、一年365日のうち1日だけは死をタブー視せずに、誰もにいつか訪れる自分の最期について考え、どのように過ごしたいかを家族と話し、伝える。そのように家族と死生観・人生観を共有する機会が必要と感じ、活動を開始しました。全ての人に例外なく死が訪れるわけですから、終末期医療に関心がある人もない人も、年齢を超えたすべての人に自然に考えてもらう機会にするため、この日を創りました。そして自分の最期を考えることは決してマイナスなことではな

く、「自由に考え行動できる今」を再認識し、周囲の支えに感謝し、一日一日を大切に精一杯生きるというプラスのことに継ぎます。

「第一回いのちの輝きを考える日」は2012年10月27日に出雲市役所くにびき大ホールにて開催しました。講演は、1. いのちの輝きを考える 2. 事前指示書について 3. 福祉施設での看取りについて（施設職員の報告） 4. 家族による看取り経験の発表、という内容で行いました。参加人数は180人。年齢；20～30歳代24%、40～50歳代41%、60歳代24%、70歳代7%、80歳代以上3%。職種；保健医療33%、福祉34%、一般26%。住所；出雲市内81%、出雲市外の島根県内18%、県外1%。講演後のアンケートでは、自身の今後の行動について；家族と終末期について話し合う54人、事前指示書作成21人、職場で周知14人、前向きに生きる2人、全体の評価；大変良かった53%、良かった38%でした。今年は10月19日（土）にくにびき大ホールにて行います。なぜ10月なのか、出雲で10月といえば言わずと知れた神在月です。八百万の神々がこれからの一年を話し合うのならば、我々人間界でも、という訳です。この「いのちの輝きを考える日」が広く社会に受け入れられ、自分の人生観・死生観を家族と共有することで、自分の望む最期が迎えられることを期待して今後も活動を推進していきます。



「いのちの輝きを考える日」の企画メンバー

連載

島根県ドクターヘリ運航3年目 ～広域連携体制の導入～

救命救急科 医長 新納 教男



2013年6月13日をもって、島根県にドクターヘリが導入されて丸2年を迎えました。2011年度の総出動件数は489件、2012年度の総出動件数は695件でした。

島根県ドクターヘリは全国的にも年間出動件数はトップクラスにあり、島根県ドクターヘリの特徴は他施設に比べて圧倒的に施設間搬送が多いことにあります。これは島根県ドクターヘリが導入される前から防災ヘリによる患者搬送が積極的に行われていたこと、地域医療の崩壊および地域による医療格差を反映しているものと思われます。

この2年間で1000件以上の出動があり、多くの患者さんの救命や後遺症の軽減に貢献できました。そして何より全国のドクターヘリ同様、人身事故なく安全運航が続いています。ドクターヘリ運航スタッフのみならず消防機関や病院スタッフの皆様方、ドクターヘリに携わるすべての皆様のご協力のもと、この島根県ドクターヘリ事業は3年目を迎えることができました。心より感謝申し上げます。そして多くの患者さんの救命と後遺症の軽減のために、今後ともさらなるご協力をお願い申し上げます。

日本で最初にドクターヘリが導入されたのは岡山県で、2001年4月のことでした。ドクターヘリのパイオニア・岡山県に遅れること10年、2011年1月には山口県にドクターヘリが導入され、2011年6月に島根県にも導入されました。

島根県の地形は東西約230km、離島の隠岐諸島もあるため、島根県内の地域によってドクターヘリ出動件数に偏りがでるのは仕方ありません。基地病院である島根県立中央病院から、島根県全域を良く言えば凡そ45分でカバーすることができますが、悪く言えばドクターヘリが到着するまでに40分以上もかかってしまうのです。

今年5月に広島県にもドクターヘリが導入されたことを契機に、今年6月には新たに中国5県によるドクターヘリ広域連携体制が整いました。

即ち、島根県ドクターヘリは鳥取県西部および広島県北部をカバー、島根県西部は広島県ドクターヘリおよび山口県ドクターヘリでカバーという、県境を越えた運航が開始されました。

【島根県・鳥取県】、【島根県・広島県・山口県】によるドクターヘリ広域連携



このドクターヘリ広域連携体制により、ドクターヘリの有効性がさらに発揮され、さらに多くの尊い命が救われることが期待されます。



中央病院フライトスタッフ

～しまね医療情報ネットワーク（まめネット）サービス開始～

情報システム管理室 室長（医療局次長） 小阪 真二



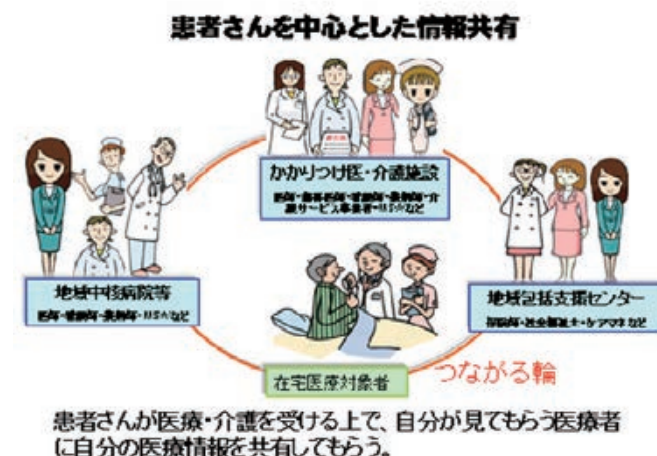
島根県における全県を対象とした医療情報ネットワーク（まめネット）が昨年後半から稼働しはじめました。患者さんの医療情報が複数の医療機関で共有できる連携カルテサービスは本年1月から稼働し、まず当院が情報提供病院として、同意の得られた患者さんの情報をネットワーク上で参照できるように情報提供を始めました。7月末現在3病院、5診療所から情報提供が行なわれています。本年度中には全県下の半分以上の病院から情報が提供される予定です。

情報を閲覧するためには各医療機関が患者さんから同意を取得します。閲覧の同意が取得できれば、まめネットに参加している情報提供医療機関の決められた情報（処方歴・検査結果・画像検査結果など）が閲覧可能です。診療所でも、情報提供病院の結果を参照しながら診療ができ、より安心して医療が受けられます。訪問看護ステーションに対しても患者さんが同意していただくだけで、情報の共有が可能になります。よりよい在宅医療・介護の有効な手段となると考えられます。

2025年に向けて考えられている地域包括ケアの図では、患者さんを中心とし、急性期から在宅までを地域全体で支えていくということになっています。まめネットにおいては、急性期病院や診療所などの情報を地域でその患者さんをケアしている方に共有してもらい、より効率よく、有効に利用してもらう環境を構築されています。最近始まった県の在宅医療連携ワーキングでは、在宅医療・介護現場の意見を集約して、よりよい追加機能を考慮されているところです。

現在は参加していただいている患者さんが2000人ほどとそれほど多くありませんが、情報提供病院が増加し、圏内の各二次医療圏で医療連携が始まれば、参加される方が増えるのではないかと期待しています。また、今後、連携において、有用性が認識されれば、参加される医療機関も増加し、より広がっていくと確信しています。

【地域包括ケアの図】



連携カルテ画面

施設患者ID: [] 1939年06月20日生 73歳 11ヶ月 26日

カルテ: [] プロファイル: [] 病名: [] アレルギーマ: [] 検査: [] レポート: []

診療科: [] 文書分類: [] 検索: [] 保存: [] 共有: []

医療機関: [] カレンダー: [] イベント: [] 基準日: 2013/05/15

2013	2/9	2/10	2/11	2/12	2/13	2/20	3/1	3/8	4/5	4/26	5/10	5/14	5/15
SCA													
処方													
注射													
検査結果													
診断結果													
生理検査													
その他													

「チーム医療推進ワークショップ」シリーズを新規に企画し好評！

医療支援室 室長 岩成 治

看護師長 石飛 美智江



当病院は医療局、看護局、医療技術局、薬剤局、事務局に所属する1,050人と委託企業（10社350人）の非常に多くの専門職集団で成り立っています。さらに、近年の医療の高度化・複雑化に伴う業務が増大し、不足している医師

や看護師の許容量を超え、医療現場が疲弊しているのも事実です。そこで、多種多様な医療スタッフが、高い専門性に基づいて目的と情報を共有し、業務を分担するとともに、互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供する、チーム医療が必須となってきました。

そこで、医療支援室は良質で安全な医療のために、全職員がチーム医療の一員であることを自覚し、他職種を理解して、多職種協働で患者さん中心の高度医療推進を目的に、初めてチーム医療推進研修に取り組みました。

「チーム医療推進ワークショップ」は、このチーム医療推進研修（他に講演会、チーム医療推進員育成、新人研修）の一環として、チーム医療や業務内容



について発表し意見交換を行い、お互いの職種や医療チームを理解することを目的として行っています。2013年2月から定期的開催し、毎回100～160人の多くの出席者があり好評です。

チーム医療推進ワークショップ



	テーマ	内 容
1	チーム活動報告 (2013. 2. 5)	①「退院支援システムの構築に向けた取り組み」地域医療連携室・退院調整チーム ②「当院における嚥下障害の現状」「新・嚥下調整食の選び方」摂食・嚥下チーム
2	当院の広報の現状とこれから (2013. 3. 6)	①基調講演「島根県立中央病院の広報について」広報委員長 ②パネルディスカッション「当院の情報提供のあり方を考える」広報委員会、情報セキュリティ管理委員会、認定看護師、事務局、地域医療連携室
3	事務局を知ろう (2013. 4. 24)	①基調講演「わかりやすい事務局紹介」県立病院課調整監 ②パネルディスカッション「事務局って何をするとところ？」事務局各課
4	統合運用紹介 (2013. 6. 18)	①基調講演「病院を支える日本初の統合運用」統合運用推進室室長 ②委託企業10社の発表
5	拡大する薬剤師の業務 (2013. 7. 16)	①基調講演「薬剤師のチーム医療における役割」薬剤局次長 ②パネルディスカッション「薬剤師のチーム医療で医療が変わる」各業務担当薬剤師

～ 院内で各種イベントが開催されました ～

2013年5月17日

「看護の日」

看護局長とともに患者さんとふれ
あいました

今年は、「しまね海洋館ア
クアス」で獣医師をされてい
る 三島有紀さん を一日看
護局長に迎え、実施しまし
た。



一日看護局長から職員へ激励の
メッセージをいただきました



2013年6月7日

院内コンサート

(外来ホール)

今年も出雲北陵高等学校合
唱部の皆さんをお迎えして、
院内コンサートを開催しまし
た。若さあふれる合唱に、会
場に集まった患者さんやご家
族の方々はたくさんの元気を
もらいました。

出雲北陵高等学校の皆さん



合唱部の皆さん熱唱しました！

2013年7月5日

七夕会

(外来ホール)

大社リコーダークラブの皆さん

TRC：大社リコーダークラ
ブの皆さんのところが和む歌
と演奏で、会場の皆さんも一
緒になって歌い、癒しのひと
ときを過ごしました。



たくさんの人に聞いてもらいました



採用

平成25年6月30日（日）に実施しました看護師採用試験
では、5名の看護師が合格しました！
9月以降に適宜、各所属に配置される予定です。

外来診療表【 一般（初診） 】										平成25年8月1日時点
診 療 科	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
総合診療科	○		○		○		○		○	
精神神経科	○		○		○		○		○	
神経内科	○		○		○		○		○	
呼吸器科										
消化器科	○		○		○		○		○	
循環器科	○		○		○		○		○	
リウマチ・アレルギー科	○			○	○	○			○	
血液腫瘍科	○				○		○		○	
内分泌代謝科	○		○		○		○		○	
外科	○		○		○		○		○	
乳腺科	○		○		○					
整形外科	○		○		○		○		○	
脳神経外科	○		○		○		○		○	
呼吸器外科					○				○	
心臓血管外科	○				○				○	
泌尿器科	○		○				○		○	
小児外科		○					○			
腎臓科	○		○				○			
形成外科		○			○				○	
皮膚科	○		○		○		○		○	
眼科	○		○		○		○		○	
耳鼻咽喉科	○		○				○			
歯科口腔外科	○		○		○		○		○	
小児科	○		○		○		○		○	
産婦人科	○		○		○		○		○	

◆編集後記◆今年度から担当することになりました。前任者の編集方法を参考にし、読者に分かりやすい編集に努めたいと思います。また、話題も豊富なものにしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。【Y・S】